

# 「活力のあるたくましいまち岡谷」

—創業の夢が膨むまちづくり—

## —語り合った人たち—

浦野 裕太 様 (株)エール・オー)	平松 徹 様 (株)インプロバイズ)
宮本 総子 様 (有)クローバーデザイン)	清水 文雄 様 (有)ディオン光学技研)
高野 美代子様 (サファリデザイン)	今井 竜五 市長
	中田 富雄 総務部長 (司会)

新しい年、平成20年(2008年)が始まりました。

今年も市民のみなさんが安心安全で健康に暮らせるまち、住んでみたい住み続けたいまちを実現できるように英知を結集して「人、輝き たくましいまち岡谷」を推進してまいります。

これからは、市民のみなさんと市との協働によるまちづくりをより強力に推進していくわけですが、今回は、「活力のあるたくましいまち岡谷」というテーマで、長野県創業支援センターでご活躍されている5人の方にお集まりいただき、今井市長と座談会を行いました。

### 市長

新年おめでとうございます。みなさんには、ベンチャー企業として長野県創業支援センター(以下創業支援センター)で、トレーニング中というところでございますが、新進気鋭の企業経営者として、やがて岡谷市や諏訪地域の産業をリードされるまでに成長される方々と期待しております。また、できますれば、支援センターを卒業される際には、全員が岡谷市で独立のスタートをきっていただきたいと希望しております。

さて、今多くの地方自治体は、国の三位一体改革により、大変厳しい財政運営を担っているわけですが、岡谷市として例外ではなく、現在、岡谷市行財政改革プランを確実に実行しつつ、自立型財政へ懸念の転換を図っているところでもあります。また、これからのまちづくりを進めていくためには、産業基盤を充実させ自主財源の確保に繋げることが主要な課題になってきます。私は、「産業の活力がたくましく輝く」をテーマに製造業を軸とした産業の振興を行うことにより、にぎわいと活力のあるまちづくりを進めてまいりたいと思っております。

みなさんが新しい分野にどのようチャレンジされようとしているのか、そして岡谷のまちづくり

は、みなさんを応援し、工業基盤を堅持しながらこの先どのように変わっていくことができるのか、新春にふさわしくみなさんの夢と岡谷のまちづくりが広がりますように、忌憚(きたん)の無いご意見をお聞かせいただければありがたいと思いません。

### 司会

はじめに事業の内容など簡単にご説明いただきながら自己紹介をお願いいたします。

### 宮本さん

クローバーデザインの宮本と申します。創業して3年が経ったところです。諏訪の工業の技術を活かして日用品をつくりたいという気持ちをもとに、女性3人で起業しました。もともとクラフトのものづくり活動をしていたのですが、精度の高い物を多くの人に評価してもらえようになりたいという思いがどんどん強くなりました。創業支援センターに入ったテーマは、ハウステコレーションといって、住宅の外観や内装などの総称ですが、雑貨よりももう少し大きいものをテーマに入らせていただきました。今、実務としては、得意なグラフィックデザインとウェブデザインを使って、名刺をつくったり、企業のコーポレートマークをつくったり、会社案



内、ポスター、パンフレット、製品案内、製品のパッケージを製作したり、また、製品の名称を考えたりします。それを紹介するウェブのフォローもしています。私たちは、お客様の手伝いをさせていただくことによって、様々な会社もっている技術を学ばせていただき、次は私たちがやりたい、日用品や雑貨の制作を企業の方たちにサポートしてもらえようという関係をつくりたいという思いでやっています。

### 平松さん

インプロバイズの平松です。創業して5年目になります。当社の業務は、ライフサイエンスです。2つのテーマがありまして、一つは臨床検査装置、特に血液検査関係と、もう一つは、遺伝子の分析装置です。それぞれ当社が研究開発したものです。遺伝子の分析装置は、犯罪現場に持って行って遺伝子を分析して犯人特定を急ぐといった場面での捜査活動に今後期待されています。そういった装置に関わるものをメインに、ほかにも様々な開発をしています。

### 清水さん

ディオン光学技研の清水です。創業以来3年になります。私たちは、30年以上やってきました望遠鏡を中心とした光学関係の開発技

術を活かして、お客様の望むようなものがつくればいいなというのが夢で、私と3人の仲間起業をしました。業界としてもそんなに大きくありませんので、中堅的な会社と協力して、自分たちが持っている、光学設計や開発ノウハウを活かして、その会社が伸びるような、そんな力になればなと思っています。また製造も少しできればいいなと思っています。

### 高野さん

サファリデザインの高野と申します。私は、昨年4月から創業支援センターに入らせていただきました。昨年までは会社に勤めていましたが、起業しました。事業内容としては、ウェブの制作がほとんどですけれども、ログのプログラミングサイトとか、ショッピングサイトの構築などを行っていきます。これから頑張っていきたいと思っています。

### 浦野さん

エール・オーの浦野です。私どもは創業したのが昨年の3月です。業務内容はマイクロバブル発生装置で筑波大学の特許を使った応用製品の開発販売をしています。昨年は浄水シャワーを発売しまして、まあまあ出たんですが、今年はお客が、という感じですかね。

マイクロバブル発生装置を使った新しい製品を開発していきたいと思っています。

## 新規創業のきっかけ

### 司会

それぞれみなさんの自己紹介の中でご自分の事業内容等紹介をいただきました。その中ですでに触れていたいただいた部分もあります。『新規創業のきっかけ』ということで、お話を聞かせていただきたいと思っています。

### 浦野さん

創業したきっかけは、元の会社が事業撤退してしまったことです。そこでずっとかかわってきた事業を続けたいという思いが強くなりました。創業はわりと簡単にできますし、ものをつくっている時は楽しくて、非常にいいのですが、それがどのくらい続くか非常に心配です。5年10年続けていくにはどうしたらいいかと悩みながら創業したというのが事実ですね。



ひらまつ 平松 とおる 徹さん

清水さん 私もずっと企業に勤めていたのが当然独立すると収入の目途がなくなるわけですし、どういふふうに住んでいくのかという問題はあります。幸いにも前の会社からの依頼があり、技術顧問として二束のわらじがはけたので非常に助かりましたが、やはり創業することとなると当面食べていくという一番の決断になるのかなと思います。

平松さん 私の場合は、50歳過ぎたあたりから何か自分でやりたいと思い始めました。山の中で最先端の技術をやりたいという思いがあり、最初はインターネットのインフラ整備が整ってきたので、もしかしたらできるという気持ちを持ちました。

それと、もうひとつは、研究畑



におりまして、様々なプロジェクトを抱えていた中から、遺伝子工学をやってみたいと感じ、特に大企業が参画できる業界ではないために、同じような小さい会社がいっぱいあり、そこでひとつやってみよう、3年間調査をしました。場所は米沢と岡谷と浜松のうちどこにしよるか悩み、機械加工ができる岡谷の知り合いのところに来たところ、支援センターがあると聞きまして行きました。しかし、締切りが2日前に過ぎていて、じゃあまた来年申し込んだらということにして、その間に住むところを山の中の場所に決めてこちらにやってきました。

### 宮本さん

私は、出産で育児休業をしていましたが、社会復帰をするタイミングにとっても悩みました。前の職場にはいつもありがたい対応をいただいていたのですが、自分がやりたいことができず、このまま就職活動をしないで済む方法がないかということでも起業しました。しかし、実際悩みは尽きなくて、子育ての時期はスタッフに理解してもらって、在宅勤務でした。入園した4月からはちょっと手が離れて、子どもの成長につれてフルタ



とこさん  
さとし  
もみや  
みやもと  
宮本

イムに近づいた仕事ができるようになりまして。時には、子どもを預けて仕事をしなければ回らないことも多々ある中で、保育園の一時保育で応じていただいたり、フオローしていただく機会にとっても恵まれることがあって、おかげさまで心配がだんだん薄くなって仕事にフルに向かえるようになりました。また、欠席できない打ち合わせの際に子供の具合が悪くて困りましたが、今年度から市の病児病後児保育の制度ができ、市内のお医者様に併設の施設で見ていただき大変お世話になりました。

### 高野さん

創業のきっかけというのは、今の業種の会社にいるときからウェブの制作ですとかデザインもやっていて、結構職人体質というんですかね、とことん作りこんで、より良いホームページというかわエブをつくっていききたいという思いがあります。起業を思い立ちま

した。創業支援センターの募集を見まして技術的な指導ですとか相談にものっていただけるということで、入らせていただきました。

### 市長

実は私は、創業支援センターの一期生です。支援センターができすぎてすぐに入所させていただきまして、最初2年という約束だったのですが、センターの仲間たちとお願いして、2年では実績が上がらないからと、5年までに延長してもらい卒業しました。それぞれ創業のきっかけをお話いただきました。私が、私は浦野さんと似ています。若い世代にはわからないかもしれませんが、私たちの世代だとコンピュータのダウンサイジングという言葉が一時流行った時代がありました。オフィスコンピュータからパーソナルコンピュータへの急激な転換期でした。ソフトウェアの合理化があり、独立してソフトウェアの制作会社を起業したところ、ちょうど支援センターができて入れていただきました。創業支援センターでのメリットは、家賃がかからなかったということが一つ、それといろいろな形でアドバイザースタッフが立ち会ってくれたというのもありました。それから、もう一つ支援センターから独立した直後に市の制度で家賃補助を2年使わせてもらいました。起

業間もないころは、一つの仕事が終わるとその次の仕事の確保がなかなか難しかったこと、また、人を増やしていく時が大変です。みなさんにはその先の光景を描いてやっていただけるといいなと思います。また、支援センターや支援制度を充分活用していただきたいと思っています。

### 司会

みなさんのお話をひとつお聞きして、それぞれにご質問などあります。

### 市長

平松さんはどうして山の中で先端技術をとお考えに？

### 平松さん

東京ですと生活をしてきまして、空気の悪さ、人の多さ、忙しい時間、東京は一生住むところではないなと感じていましたし、どうも私の生き方と違うと昔から思っていました。出身は北海道です。北海道に帰ってもよかったです。私が、やりたいと思う仕事がない。私と同じように環境のいいところで仕事したいと考えている技術者はいっぱいいると思つています。都会の定年退職者が、農業という形で田舎に拠点を移すことはめずらしくはなくなっています。私は定年まで待てなかったので、



東京にもアクセスが良くて仕事ができ、自然環境の良いこちらにきました。今は、山麓の生活に満足しています。

### 市長

清水さんは、先ほど設計だけでなく製造の方もやるとおっしゃっていましたが、支援センターのスペースでは製造はしづらいじゃないですか？

### 清水さん

部品確保から組み立てなどほとんど外注でお願いをして、設計開発や重要な部分の組み立てとか、確認とかは支援センターのスペースでもできるかなと思っていました。

### 市長

量産物でなく一品というイメージですか？

### 清水さん

数が多い量産物は中国などに勝てないと思います。こういうところでやるからには、技術的に最先端もので、かつ量は少なくとも本当にいいものを作っていく。これしか生きる道はないんじゃないかなと私は思っています。日本国内、岡谷のような狭い内陸部は、本当に付加価値のある製品を作れる企業を数多く輩出していく、という

方向しかないんじゃないかというのが私の思いですけども……。

### 平松さん

私も、前の会社では12〜13年研究畑にいまして、国内に残る事業は何かやっていうことでいろいろやりましたが、医療、食品、教育などのいわゆる「待てないもの」ですね。そういうものしか残らないだろうと。お客さんが「待てるもの」っていうのは、生ものじゃないもの。そういうものはやはり海外に輸出できるもので、研究開発する部分は国内に残って、製造は海外という形だと思っています。

### 浦野さん

私はそうとも思っていないですね。うちの社はマイクロバブル発生装置ですが、いろいろなところから中国でやらせてほしいといつて来ました。例えば中国に持つていった場合ですね、確かに人件費は安いので製品を安くできるでしょうが、品質をどこまで保てるか。まだまだ日本のほうが技術はかなり上です。清水さんや平松さんの言葉は耳に痛いですが、私も数物をしてるので、数物もやっぱ良い品質で安心できるものをお客様に届けるには、まだまだ中国では無理があるのかな。物によりつけどね。全部中国に行くかといつたらそうは思えないですね。

### 平松さん

韓国の大手電器メーカーが神奈川に技術施設を作るというので見にいきましたが、なんで韓国につくらないかというところや品質の面で日本に進出しなないと競合できないという話がありましたね。やはり加工技術が一番問題で、高度な加工技術が必要とするものは日本国内でやるというお話でした。



しみず 清水 文雄さん

### 清水さん

それで私の話しを補足すると、確かに、ネジ一つ切る場合でも、かみ合わせの具合だけでもどこまであわせるかという感性の問題になつてくる領域があるんです。1番、2番という規格だけではないようなものがあると思います。そういうものを実は岡谷とか諏訪とかはずっと積み上げてありますからそれを大事にしたいということですね。それが限りは世界で一番いいものがつくれる。だから日本でできるといふことだと思っています。

### 平松さん

団塊の世代が退職になった時に、その損失される技術力がもの

### 市長

今、平松さんが団塊の世代とおっしゃいましたが、それが今の大きな問題でして、私の知っている会社でも旋盤ですが、その技術伝承をわざわざ機械を据え付けて、夜、若い人に先輩が教えているなんてことをしています。団塊の世代の方たちの持っている技術の取り込みをきちんとできないか、と考えているところでです。

チャレンジしやう  
まちづくりをしよう

### 司会

次のテーマです。岡谷市の産業



基盤や技術集積をどのように生かして創業していくかというテーマですが、創業支援センターや県の工業技術総合センター、テクノプラザおかや（以下テクノプラザ）など、みなさんのサポート環境があるわけですが、こういったところでもっとサポートしてほしいとか、日頃感じていることをお話しただけならと思います。

## 市長

例えば、こういったことで、テクノプラザに相談に行ったことの経験ありますか？

## 清水さん

私が創業しようとテクノプラザへ相談に行ったとき、ちゃんとした覚悟がなかったらサラリーマンしていた方がいいですよって、性根を試されて、創業支援センターの話もそこでお聞きして手続きをとりました。

## 高野さん

最初はテクノプラザの存在を知らずに、何か月かいろいろなところに相談に行き、松本の商工会議所でテクノプラザのことをお聞きして伺ったんです。最初に知っていたら遠回りしないですみましたね。いろんな手続きですとかテクノプラザで相談にのっていただいた助かりました。



## 平松さん

私は、資金繰りで困ったときに、利息は市で補填してもらえ、100万円の融資を受けさせていただきました。途中で全額返しましたけど。

## 司会

独立するときの家賃補助の話もありましたけれど、いろんな面でもまだまだやらなければいけない、やれることがいっぱいあると思いますので、みなさんからアイデアをだしていただければと思います。

## 市長

みなさん物をつくることは上手だけど、経理や営業等での苦勞はありますか？

## 浦野さん

営業の立場では、この商品も100%とは言わなくても90%ぐら

## 高野美代子さん

間違いないで売れるというところからはいいですね。でも技術の方は、まず自分達がつくりたいのでそこから入ってきますよね。でも、ものをつくることと売ることとはまったく別だと思っていきます。両方バランスよくやっています。両方非常に難しいですよ。

## 平松さん

確かに技術としては素晴らしいけれど、マーケティングのサイズでコストをペイできないで断念したベンチャーは無数にあります。そこをまず、自分の技術に溺れないで冷静に判断していくことが必要ですね。

## 高野さん

そうですね。別にそこまで求められてないのに、とことんつくってしまおう。すごい作業量になっても、それは自分のせいだからどこまでもやってみよう。だれかそういった見方ができる営業さんとかがいてくれれば…。

## 司会

高野さんがとことん



## 宮本さん

そういう話をしましたが、宮本さんも似ているのではないですか？

そうですね。私の会社は4人いるので、一人に仕事が偏らないように注意しています。また、デザインの重要性を話し合うブレインストーミングもします。諏訪はものづくりが得意なまちですが、デザインを担う会社の割合は少ないように感じます。デザインの必要性や土壌をつくる所から始めないと、と思います。

## 清水さん

大きい会社だとデザイン部が関与して意匠が先にでき、それに合わせて設計することはありますが、それほど大きくないと設計がデザインになってしまおう。

いまい 今井 市長  
りゅうご 竜五



### 浦野さん

話は変わりますが、私たちより年代の下の方々でも、ものづくりを仕事にしていきたいという人は大勢いると思うんですよ。アイデアとか、企画書とかを気軽に受け止めてくれて、冷静な目でこういう会社にすれば売れるよとか、的確な指導や支援をしてくれるような専門機関があればということですが。商工会議所とかがそういう役割をはたしてくれるのかわかりませんが、そういうところにたどり着ける方法でも教えてもらえるとありがたいのですが…。

### 市長

創業をしたい人たちが気軽に集まってもらって、セミナーみたいなものはやっていかなければとは思っています。実際、商工会議所で「チャレンジ起業相談室」というのをやっていて、諏訪一円で創業セミナーもやっていますね

### 浦野さん

セミナーでは建前になってしまったので、本音でぶつかりあえるような機関のようなところがあればいいんですがね。



うらの ゆうた 浦野 裕太さん

### 市長

創業するにはこういう方法があるよとか、こういうことを覚悟して会社作らないとだめとか相談やアドバイスをもらえる場所だと思えますが、テクノプラザでも実際そういう相談は日々受けているのですよ。

### 清水さん

私はテクノプラザで教わりながら起業しました。テクノプラザと工業振興課と商工会議所の横のつながりはどのようになっているのですか？

### 市長

「テクノプラザおかや」は市の工業振興課がそこで仕事をしていますので、同じ物といえます。商工会議所とは、どちらにも出向かれても常に情報の共有ができています。これからも図っていくつもりです。テクノプラザは創

業相談についても、もっとPRをしていきます。

### 宮本さん

若い人たちのビジネスへの関心が増えていくのがあるのかなってすごく興味があつて、主婦の方や若い人でも、また、市内の高校生を対象にビジネスセミナーとか、勉強する機会を得られるようなことがあつたらすごくいいなと思います。高校生の時に企業訪問など実際の仕事を勉強する機会があつたら意識が変わるだろうし、少しはUターンや起業へのきっかけがつけられるんじゃないかなと思います。

### 市長

高校生を含めて、企業へのインターンシップ制度にはこれからも一層の力を入れていきたいと思えますので、みなさんにもご協力をお願いいたします。

### 今後の抱負

### 司会

次のテーマですが、みなさんお一人お一人が日々活き活きとお仕事をなさっていらっしゃることが伝わってまいりました。新年を迎

えこれからの夢といいますか、抱負をお伺いできればと思います。

### 清水さん

今は正直言つて設計と製造やつてきてやつと地盤ができてきて、売上額も少しずつ増えてきたところなんです。4人でやっていますので、稼ぐ事も考えながら、徐々にやつて来たところなんです。当面の問題としては、あと2年センターにおいてもらったとしてその後、どういう形で出ていくかということなんです。テクノプラザでは空き工場や貸し工場の紹介などの相談に乗っていただけると聞いていますので、広いスペースでなくも、商業的に無理になつた所で工場化への転換ができるような所も紹介していただけると非常にありがたいと思つています。地場に根付いて、いろいろな会社のお手伝いをさせてもらいながら、10人から20人の内容のいい会社がこの地域に多くなつて、そんな会社の一つになればいいなと思つています。

### 平松さん

私の会社は大きくしようとは思つてないのですよ。技術に自分の目が届くというのでしょうか、タッチできるレベルというのがある、多くても4〜5人くらいかな。しかし、ものづくりは好きなので興味のあるテーマでずつと仕事を



続けていきたいと思っています。

## 司会

医療分野について岡谷の中から企業が出てきていますが。

## 平松さん

私が岡谷のまちがこうあって欲しいなと思うのは、「起業するなら岡谷に行けと。あそこに行けばシリコンバレーみたいになり小さい企業がたくさんあって、お互いに切磋琢磨してものづくりをしているぞ」といった、そんな活気のあるまちであればいいなと。

## 宮本さん

これからも岡谷のものづくりの技術に注目し、生活を豊かにする雑貨や日用品を少しでも多く産みだし、社会に提案できる会社になりたいと思います。

## 浦野さん

お客様が良い評価をしてくれる製品をつくれれば会社はそれなりに大きくなると思っています。自分で肩肘張って大きくしようとは思っていません。

## 高野さん

私の周りだと諏訪の出身の友人が結構東京で起業している友人が多いです。その中でも諏訪の人のすごいところは、地元を大切にし

て繋がりを大切にしていることだと思ふんですよ。他の地域の人からすると地元意識が強すぎて入り込めないというところがあるのでもうちょっと開けたらいいと思っていますし、開けるお手伝いができればいいと思っています。

## 司会

去年岡谷市は、8人の尊い命をなくすような大災害があり、そのことが一つの大きなきっかけで、地域力とか結束力とかが前より強くなってきていると思います。地域だけでなく企業やまち全体の結束力がさらに生まれてくればと思います。今日は、様々なお話をいただき、これから創業して続こうという方々に参考になるアイデアやヒントをたくさんいただきました。ありがとうございます。

## 市長

今日みなさんにお話を聞かせていただきましたまして、やっぱりこのまちはいいまちだぞと思っています。岡谷というまちは明治からずっと一貫して工業を軸としたものづくりのまちで、そのことよって多くの人たちにきていただき、住んでいただき、そして定着していただき、

それよって第三次産業もやってきたまちでございます。私はもう一度そういったまちを創っていきたいそんな熱い思いをもっております。もう一つはその中でいかに子育てをしやすいまちをつくるか、そのような環境をどうやって提供できるか、それもまた考えていかなければならないと思います。

まずは、製造業を軸とした岡谷市をつくっていくには創業していく力が必要です。起業する方は大歓迎でありますから、テクノプラザに相談やご意見をいただきたいです。私たちはそれにいかに応えていくか一生懸命やっていきたいと思ふます。岡谷はご承知のとおりあまり広くないまちです。なかなか企業の誘致というのは難しいところもあります。それでも研究開発型の企業ですとか研究機関等の誘致は考えていかなければいけないと思ふます。そういったこと



《司会》  
なかた とみお 中田 富雄 総務部長



にもみなさんのお知恵を拝借したいと思っています。またみなさんが支援センター卒業のときはぜひ岡谷市に会社を設立していただきますようお願いいたします。今年、みなさんの創業にかけた夢が大きく、そして確かな膨らみになりますよう祈念いたします。新春対談の御礼といたします。

